

発達障害のある学生への就労準備プログラム働くチカラPROJECT ～ライフスキル、ソフトスキルの支援と今後の展望～

○渡辺 明日香（株式会社エンカレッジ エンカレッジ早稲田駅前 主任）

○高橋 亜希子（株式会社エンカレッジ 取締役）

玉井 龍斗・南川 茉莉花（株式会社エンカレッジ エンカレッジ早稲田駅前 コーディネーター）

1 はじめに

独立行政法人日本学生支援機構が実施する全国の大学、短期大学および高等専門学校における障害のある学生の就学支援に関する実態調査によれば、障害学生数は58,141人となり、障害学生在籍率は1.79%となった。（独立行政法人日本学生支援機構, 2024⁴⁾）

その中で発達障害学生は年々増加しており、医師の診断はないが発達障害があることが推察される学生が一定数在籍している。これまで通常学級に在籍をして大学進学した学生にとって、就職時に自身の障害特性を自覚して、自分に合った働き方を選択することは容易ではない。（榎本、清野、木口, 2018¹⁾）実際に、就職活動での失敗体験の積み重ねや就職したものの適応できず二次障害を抱えるケースを支援の中で目の当たりにしている。発達障害学生に対する就労支援においては、大学等と就労支援機関との連携の必要性が一層高まっているといわれている（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構, 2023³⁾）。

上述のような社会的課題に対して株式会社エンカレッジ（以下「当社」という。）では、大学・企業と連携をしながら発達障害学生の就活での困りごとの解消に取り組んできた。今回は、2023年度から2024年8月現在までに実施した「発達障害のある学生への就労準備プログラム働くチカラPROJECT」（以下「働くチカラPROJECT」という。）における実践の振り返りと今後の展望について報告をする。

2 発達障害のある学生への就労準備プログラム働くチカラPROJECTの概要

(1) 働くチカラPROJECTの目的と運営

発達障害やコミュニケーションに不安のある学生のために、大学生活からその先の社会への接続に向けた支援と、社会で働き続けるための土台づくりに軸足を置き、さまざまなプログラムを実施している。このプログラムの実施場所は、関西・東海・関東3つの地域で3つの法人で共同運営をしている。関西は北摂杉の子会ジョブジョイントおおさか、東海は一般社団法人fabrica（ファブリカ）、そして当社が関西と関東で実施している。プログラム内容は各エリアの法人ごとに異なっており、地域の特色や時代の変化に応じてリニューアルしている。

(2) 働くチカラPROJECT東京会場のプログラム内容

プログラム内容は主に4つある。1つ目は、「企業へ行ってみよう!」というプログラムである。企業を訪問して企業見学や会社説明、先輩社員の話を聞くという内容である。企業によっては数日間、業務体験を行える内容もある。2つ目は、「発達障害のある学生のための就活ゼミ」というプログラムで、大手企業で障害者採用に携わった経験のある講師が、企業目線から障害者雇用への考え方や事例を紹介する内容となっている。3つ目は、「しごとを体験してみよう!」というプログラムで、事務、営業、物流の業務を切り出した業務サンプルが経験できるものと、オンラインしごと体験という当社のコンテンツを使用してPCでの業務体験ができるものが2つある。4つ目は「ピアカフェ」といい、学生同士が就活や発達特性での困りごとや悩みについて共有するプログラムである。

3 プログラムの特徴と支援のポイント

働くチカラPROJECT東京会場で実施しているプログラムの特徴は、発達障害学生が抱えやすい困りごとに沿った内容とその支援のポイントを述べる。

1つ目の特徴は、企業に行くこと、業務の体験をすること、先輩社員の話を聞くことなど、実際に学生自身が見る、聞く、経験する機会を多く提供している点である。学生は特性が故に、働くイメージが湧きにくく、就活への漠然とした不安がある。その背景には、イメージの難しさやアルバイトなどの社会経験の乏しさがある。このことから早期から気軽に参加できるようにし、障害の診断や障害者手帳の有無に関係なく参加できる設定にしている。

特に、先輩社員の話は、ロールモデルとして学生に希望を与える機会となっている。大学時代の困りごとと向き合ってきたプロセスについて語ってもらい、自身と重ね合わせながら、今後のイメージに繋がるよう構成している。

2つ目の特徴は、就職活動の方法や働き方の選択肢が広げられるような視点での情報提供をしている。学生は早まる就職活動の動きに焦りを感じ、何からすればいいかわからないまま時間だけ過ぎ、就職活動の本来の目的を見失い、皆と同じように内定を得ることが目的になってしまう状況がある。2024年度は5社の企業と連携して企業訪問をして障害者雇用での働き方を知ることができる。また、セミ

ナーでは元人事担当者から様々な配置や雇用形態とキャリアステップ、配慮事例を紹介してもらい、長く働き続けるための観点を強調して伝えている。その中でキーワードは、働く土台となるライフスキルとソフトスキルで、学生が自分の働く上での準備段階を知れるようにしている。その準備段階と特性から生じやすい困りごとに応じて、自走型、伴走型、伴走から自走への移行型など、様々な就職活動のスタイルがあることを伝えている。

3つ目の特徴は、学生を孤立させず、安心できる場所で自信をつけて一歩踏み出す後押しをすることを支援のポイントとしている。発達障害学生は、周囲に障害の開示をしていないケースもあり、障害者雇用を目指す場合には秘密裏に就職活動をしていることも多い。そのため、同じような悩みや困りごとを共有できる場として、ピアカフェを開催している。学生からの承諾がある際には、大学支援者と情報共有をし、安心できるサポート体制を構築し、配慮事項を事前に共有いただき、当日安心して参加できる環境をつくることや、大学支援者の同行を歓迎していることも、安心の場に繋がっている。

上記の3つに加え、大学と企業の双方の課題解決のための取り組みでもあることも特徴であるといえる。大学内でのサポート体制やさまざまな機会の提供には限度があり、障害者雇用の専門的な支援や情報も限られていることから、大学支援者にもこのような機会を活用し、実状を知ってもらう場となっている。また、企業との協働では、企業側の採用課題にも着目して学生や社会への企業認知度を高め、また、障害者雇用の取り組みについて社内認知度を広め、理解を促進する側面にもアプローチしている。

4 効果と事例紹介

2023年度の働くチカラPROJECT東京会場に参加した学生は51名で、約47%が大学からの紹介であった。2024年8月現在、33名の学生が参加しており、大学からの紹介の割合は高い。2023年度から2024年8月現在までに参加した学生のアンケートから実践の効果を振り返り、大学との連携による発達障害学生の就労支援の事例を紹介する。

1つ目の事例は、企業訪問プログラムの参加を通じて障害者雇用のイメージが変わり、自分に合った働き方を考えた結果、障害者雇用での就職活動を決断して在学中に内定を得て就職した学生のケースである。プログラム参加当初は一般と障害者雇用とで迷いがあり、障害者雇用へのマイナスイメージから決断しきれない状態だった。大学支援者の同行のもと企業に訪問し、障害者雇用への考え方や取組と先輩社員の話聞き、イメージが大きく変わった。障害者雇用での応募を決意し、訪問をした企業での内定は叶わなかったが、別の企業で障害者雇用での内定を得て、卒業

後就労を開始している。

2つ目の事例は、障害者雇用で大学在学中の内定を目指して就職活動をしていたが、企業訪問やしごと体験の振り返りを通じて、ご両親の理解を得ながら就労移行支援事業所での伴走型での就活に取り組んだケースである。ご両親は熱心に就職活動の情報収集をしている中、学生自身は具体的にイメージができず、自分に合っている業務や環境が明確になっていない状態であった。複数のプログラムに参加し、しごと体験の振り返りでも自己の特性と働く上で必要なソフトスキルの向上のための準備をして、じっくり就職活動を進めることをご両親と共に決断できた。

これらの事例から、様々な働き方や企業を知ることで自分に合った働き方の選択に繋がること、実際に見聞きしてさらに経験することで、自己への気づきが得られること、学びのプロセスを大学支援者や家族と共有することで、就職活動のスタイルや働き方についての共通認識を得る機会となった。

5 今後の展望

就職活動は、障害の有無に関わらず、誰しも自分と向き合いながら自己選択していくものである。内定を得ただけが目的にならないように、自分に合った働き方に目を向けて、発達障害のある学生はもちろん困りごとを抱えた学生が、イキイキと働くことを応援し、それらを可能にするための支援やサービスを提供し続けたいと考えている。

【参考文献】

- 1) 榎本容子、清野絵、木口恵美子『福祉社会開発研究』「大学キャリアセンターの発達障害学生に対する就労支援上の困り感とは？-質問紙調査の自由記述及びインタビュー調査結果の分析から-」東洋大学(2018)10号, pp. 33-46
- 2) 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター『発達障害のある学生の就労支援に向けて -大学等と就労支援機関との連携による支援の取組事例集-』(2023)
- 3) 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター『発達障害のある学生に対する大学等と就労支援機関との連携による就労支援の現状と課題に関する調査研究』(2023)
- 4) 独立行政法人日本学生支援機構「令和5年度(2023年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果の概要について」, https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/_icsFiles/afieldfile/2024/08/06/2023_press.pdf, (2024) (閲覧日: 2024年8月12日)

【連絡先】

渡辺 明日香
株式会社エンカレッジ
e-mail: encourage@enc.jp